

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773200464		
法人名	医療法人 博文会		
事業所名	認知症対応型老人共同生活援助施設 クレール双葉 (A棟)		
所在地	福島県双葉郡大熊町大字熊字新町214-1		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年2月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>広々とした環境の中に単独3ユニットが建っています。緑に囲まれ入居者は大変穏やかに生活しています。</p> <p>レク活動に力を入れており、工作・習字・ぬり絵等に個性の引きだしをはかっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1. 職員は話し合いをしながら利用者本位に適切な支援を行っているため、利用者が落ち着いてゆったりと生活している。</p> <p>2. 法人本体が医療機関であり、毎日、看護師が利用者の身体状況を確認し、施設長(医師)に連絡し必要に応じて往診が受けられる体制となっていることから、利用者・家族が安心して入居している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本人の馴染みのある地域で安心して暮らす事ができるように、心身へのケアサービスを提供している。	利用者が馴染みの地域で安心して暮らせるよう、利用者本位のサービスを提供することを理念に謳い、ユニットごとの玄関に掲示し周知している。管理者と職員は日々、理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地区の行事等への参加も少ないため交流の機会が少ないが、今後は地域との関わりが持てる機会を作っていきたい。	利用者が馴染みの地域行事に参加できるよう、行事ごとの参加者を募り、地域行事等へ参加している。また、民謡のボランティア等が事業所を訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族へは、面会時には情報として報告しているが、地域住民への理解度は浸透していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	サービスの見直しなどをしながら、改善、向上に努めている。	事業所の現状(入居者の状況、活動内容、研修、人事異動等)を伝え、参加した委員から意見や要望が出されている。出された意見はサービス向上に活かされているが、開催回数が1年に4回であった。	年に6回、運営推進会議が開催されるよう、委員と日程等を協議して取り組んで欲しい。事業所からの報告事項に外部評価のことも入れて、委員にモニター役になってもらうことも大切である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各事業所との連絡をとりながら、連携体制の構築に日々励んでいる。	事業所のある町だけでなく、利用者宅のある市町村の担当者とも定期的に連携を取っており、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する話し合いや、研修への参加・勉強会を開くことで理解に努めている。	身体拘束廃止について、ミーティング等の際に勉強する機会を設けている。日中、玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を常に強く持ち、日々の業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	積極的に勉強会を実施し、学ぶ事により職員一人一人のスキルアップを目指していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分に説明を行う他、随時、何かあれば相談には対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、家族とのやりとりのなかでの対応をしている。	家族の来訪時に日頃の様子を伝え、家族の意見等聞き取っている。聞き取った意見等は速やかに運営に反映させており、今年から職員全員が名札を付けることにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや、主任会議などで意見などをあげてもらい、改善への話し合いを行っている。	管理者等は日頃から職員の話しを聞くように心がけている。ミーティング等で出された職員の意見等を運営に反映させる体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場を目指して、日々努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加はもちろん、日々の業務の中から一人一人の力量を把握した上で、個人への指導も継続していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間交流はないが、地区研修の機会があれば、交流の場や、情報交換の場として参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、生活の中における不安や悩みには、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何かあれば、その都度伺うようにし、家族の不安の除去に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意向を伺い、その時必要なサービスについて、アドバイスさせてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他入居者間との、関係の構築にも日々努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、入居者との関係保持に協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲で対応している。	利用者の馴染みの人や地域との関係把握に努めている。電話等で家族や知人との連絡を取り持ったり、近くの山や川へドライブしたり、文化展やミニ野馬追いを見に行くなど、利用者が大切にしている地域との関わりが継続できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間との関係が良好なものに保持できるよう、一人一人の個性を把握し仲介に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、対応している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、把握に努め対応している。	休憩時や夜間一人になった時など、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、家族から情報を得たり、日々の行動や表情から推測し、職員間で共有しながら利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、本人からの情報を聞きながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握の仕方に職員間での差がないように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人の意見を集めて、情報として生かしプラン作成に生かしている。	利用者・家族の思いや利用者の現状を元に、全職員でモニタリングやカンファレンスを行っている。記録様式には工夫が必要な所もあるが、職員一人ひとりの意見や気づきを反映した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録内容の充実性に若干努力が必要と思われる。職員間の情報の共有はできている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じた、対応を柔軟に行う努力はもう少し必要。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ることを生かす支援に日々努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携しながら、行っている。	定期的にかかりつけ医の受診支援を行っており、受診結果は速やかに家族へ報告している。法人が医療機関であることから必要に応じて往診が週1回受けられるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院、主治医とも連携し受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や、医師との協力体制で行っている。	重度化した場合の対応を、早い時期から利用者・家族と話し合っている。事業所での看取りは行わないが、日常の健康管理の情報は必ず主治医に報告し、往診に来てもらったり、終末期には入院の連絡調整を行う等、安心して最期を迎えられるように医療連携体制がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応訓練は少ない為、今後さらに訓練が必要。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制はしいているが、実践訓練は努力が必要。	避難訓練は、インフルエンザの影響もあり年1回の実施となった。通報訓練はしているが実践訓練は極めて乏しく、一度も訓練経験がない職員がおり、夜間一人での対応に不安を抱いている。また、近隣との協力体制も構築されていない。	眠剤を服用する利用者が多く、特に夜間を想定した避難訓練の実施が望まれる。訓練回数を増やし、地域住民の参加協力を得ながら、全職員が確実に避難誘導が出来るようにして欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を把握・尊重したうえで、言葉掛けには十分配慮している。職員間でも必要に応じ、お互いにアドバイスを行っている。	日頃のケアの中で職員間で気付いた点については、お互いに注意し合い利用者のプライバシーを損ねないよう支援している。また、個人の記録の管理も適切に行なわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを尊重しながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活ペースを尊重しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重している。又、職員と一緒に服を選ぶなどの支援を日々行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事は管理栄養士のもと、厨房にて作ってもらうため、直接の調理は行う機会が少ない。	食事は別の厨房でまとめて調理されたものを配膳しており、利用者が調理する機会はなく、また、職員と一緒に食べていない。利用者の身体状況に応じて後片付け等は手伝ってもらっている。	共同生活介護の観点からも、職員と利用者が一緒に行なう食事の準備や調理、共に味わう行動は大切なものである。また、利用者の能力の発揮、引き出しにつながり、役割作り等に重要な支援となるため、今後の取り組みを希求する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の管理で一人一人に応じた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人に応じた、口腔ケア対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の把握を行い、本人の残存機能を生かす排泄への自立への支援を行っている。	排泄チェック表に依り排泄パターンを把握している。把握した排泄パターンと排泄サインを基にトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。日中・夜間ともオムツ使用者は殆どいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療連携しながら、予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調や、希望も聞きながら対応している。	基本的には利用者の希望で毎日入浴が出来る体制となっており、体調等に合わせて支援している。入浴チェック表で入浴状況を把握し、体調を見ながら清拭・足浴等も行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備、温度管理をしながら、安眠に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の用法、作用の理解については、確認しながら日々、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味・レクリエーション、施設行事への参加等で楽しい時間が過ごせるよう支援している。本人のできる範囲での役割を見つけ、生活意欲の向上を心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があれば、家族の協力も得ながら対応している。	外出は日常的な散歩の他、季節に合わせて、お花見、つつじ・アジサイ・ハーブ園見物や地域の催事(野馬追・鮭の築場)見物等など外出の機会を多くもてるよう支援している。また、家族の協力を得ながら、友人宅へ出掛ける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な入居者は少額所持しているが、極力は、事務に預けていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族の協力も得ながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間の提供のための、環境整備に日々取り組んでいる。	共用空間は大きな中庭から光線が入り明るく、スペースも広く確保されている。フローリングスペースのテーブルと椅子、畳コーナーの掘りごたつがあり、ゆったりと寛げる空間となっている。また、別に談話コーナーもあり、利用者同士で談笑する時、家族・友人の訪問時などに活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに、くつろげる場所を見つけ、過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	個室である居室には、本人の馴染みの物を置いたりして頂いてる。自分のペースで日々過ごされている。談話コーナーでは、他入居者の方との談笑や家族、友人との面会のスペースとしても使用して頂いてる。	居室には利用者の馴染みの物(無線機、小引き出しなど)を持ち込んでもらい生活しているが、居室はすっきりと片付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活しやすい環境を作りながら、自立の部分を生かして支援している。		